

「データサーフィン」導入による情報分析支援システムの超高速化を実現

2005年4月、藤沢薬品工業と山之内製薬の合併により誕生したアステラス製薬株式会社は、旧2社の異なる情報支援体制から、「ニーズを統合した1つの基本型」を形成するにあたり、多彩で膨大な情報を自在かつ短時間で分析できるシステム構築を目指しました。超高速統合型情報支援システム「データサーフィン」を3ヶ月の短期間でカスタマイズ導入し、新会社発足とともに稼働、実現しました。



背景 「速さ」は競争力

近年、医薬品業界を取り巻く環境は、度重なる医療改革に伴い、急速に変化する国内市場や世界規模で相次ぐメガファーマの誕生と急速に変化しています。

2005年4月、ともに医薬品市場においては確固たる地位を築いてきた2社（藤沢薬品工業、山之内製薬）が合併し、国内約2,500名のMRを擁する充実した営業体制、国内トップクラスの研究開発体制、また世界主要国に展開する多数の海外拠点を持つ、日本トップクラスのグローバル製薬企業が誕生しました。

アステラス製薬は、そのスケールメリットとシナジーを、競争力の原点とするため、全ての業務において「はやい」を「不可欠な成功要因」と定義し経営戦略の一翼を担う情報分析支援システムにおいても、「情報の量・多様性と、速さの両立」を第一のコンセプトに決めました。



西村守雄氏

山内英樹氏

アステラス製薬株式会社
情報システム本部 西村守雄氏、
山内英樹氏に「データサーフィン
導入」についてお話しを頂きました。
両氏は共に今回の新情報分析支援
システム導入プロジェクトの中核
メンバーです。

目的 妥協のないスピードとシナジー

蓄積される情報量は、2社統合による倍増に加え、国内トップを目指して躍進するなか、更に飛躍的な増加が見込まれているため、新情報分析支援システム導入に際し、ビジネスサイドからの要望は以下に絞り込まれ、新システム構築の目標としました。

- ①スピード： レスポンスにきわめて優れたストレスフリーシステムの提供
(膨大な情報の構築・検索・集計に要する時間の確実な短縮化)
- ②一体化： 異なる製品群を有していた、旧2社それぞれのニーズをふまえ、
一体感のある「ひとつの基本型」となるシステム環境の構築
- ③柔軟性： 新しい要望・変更、迅速かつ柔軟に対応可能なシステム

選定 ポテンシャルへの信頼

合併プロジェクトの中で、予想された膨大な情報処理に必要な処理能力を念頭に、現行のシステム及び既存の各種システムを検討した結果、他ベンダー製システムのアーキテクチャでは「はやい」を求めることは困難であるとの結論に至りました。そこで、以下の4点を選定基準として、革新的な高速ソリューションに目をむけることとなりました。

- ① 高速処理能力 ② 短期間開発の可否 ③ コストパフォーマンス ④ 要望への発展性及び柔軟性

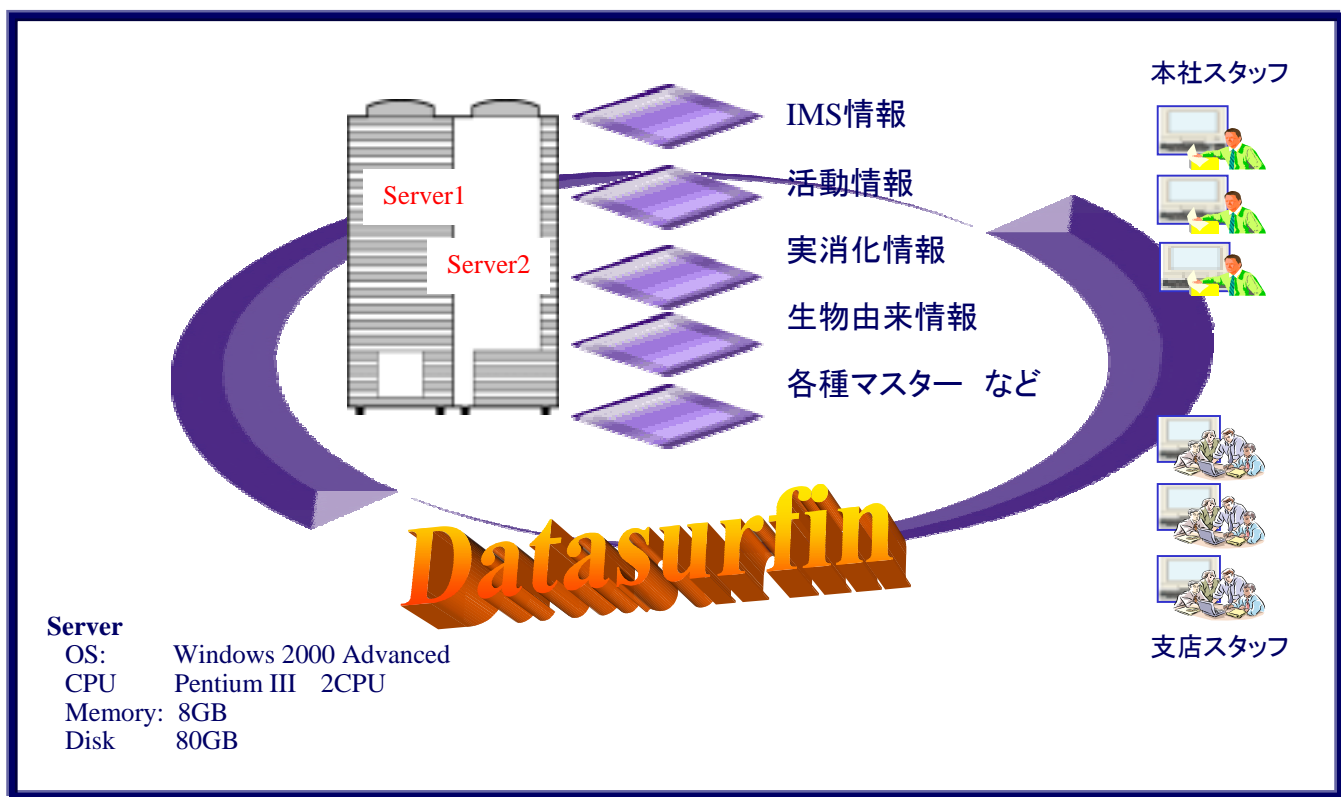
その結果、超高速情報分析支援システム「データサーフィン」の選択に至りました。「データサーフィン」は従来のDBMSとは異なる基盤で、他に類を見ない超高速処理を特徴のひとつとしています。さらに、開発元データサーフ社が医薬品業界や製薬会社業務特有の情報やシステムに対して、信頼出来る知識、経験を有している点も、決定の背景に大きく評価されました。

システム 「はやい」と「ひとつ」の実現

データベース基盤として、各種情報を一元構築、管理する「データサーフィン」、フロントエンドツールとして各種情報テーブルから同一操作で自在に情報を検索・集計する自由帳票作成機能を持つ「サーフビューア・レポート」、また、市場の特徴を検索分析する機能を提供する「サーフビューア・マトリックス」が導入されました。

「当初は新規データベースとフロントツールを同時導入することに、リスクを感じました。」(ご担当者談)が「データサーフィン」の高速処理能力を最大限に活かす「はやい」と「ひとつの基本型」が最適であると判断し、導入意思決定がなされました。

またサーバーは膨大な量の情報でも従来のような高性能大型機器を必要としない「データサーフィン」の特徴に基づき、他のシステムで使用していた機器と同等の、アステラス製薬社内標準のPCサーバー2台が実装されました。



導入 守られた納期

2005年1月中旬、本システムの導入が正式決定され、残された時間わずか3ヶ月の状況下、システム詳細内容の打合せが開始されました。データサーフ社に対し、旧2社の80にも及ぶ膨大な情報テーブルおよび、各情報特有のロジックを踏まえ、新会社のシステムとして再構成され、完全稼働を実現することが絶対条件とされました。

これに向けデータサーフ社との連日に及ぶ協議、密なるコミュニケーションが重ねられ、1ヵ月後の2月中旬には第1次パイロット版の完成、2ヶ月目の3月中旬には本番運用環境への設置、最終テストを実施、無事に期限内の稼働に至りました。この間、従来のデータベースシステムとは異なる「データサーフィン」の高い対応展開能力と開発方法により、幾度となく行われた各種要件の変更・追加・改良をスパイラル方式でクリア、ユーザーインターフェイスのみならずデータベースの再設計に至るまで、「使いやすさ」を犠牲にせず、「はやい」が、着実に短期間で上手く展開されてゆきました。

効果 ユーザーを選ばない「はやいシステム」

新システムの導入は、旧2社が各々使用していた2つのシステムを全く新しい「ひとつ」のシステムへ移行するという大きな変更にも係わらず、1回3時間の短時間の研修により稼動が開始されましたが、研修を受けた300人以上の分析支援業務担当者には大きな問題もなく、円滑に稼動して現在に至っています。

従来のシステムでは目的または情報に合わせ「操作」と情報に対する「知識」が求められ、ユーザー教育には多くの時間を必要としましたが、新システムでは「ひとつの画面」上で分析に必要な項目と必要条件を選択するという「ひとつの基本型」で、多角的な各種情報を取得でき、この使いやすさにより、誰もが使用できる「ユーザーを選ばないシステム」ができあがりました。

当初、新システムの習得には時間が掛かると予想されたため、ワンクリック操作で定型帳票を取得できる業務別カタログ機能の付加までしましたが、結果的には無用な心配に終わりました。また、各分析の処理時間も数秒単位と従来に比べ大幅に短縮され操作性向上と取得効率改善が図られました。

運用面・管理面でも夜間のデータ構築時間も従来の約10分の1以下に短縮するという、大きな成果をもたらし、新システムの必要不可欠なコンセプト「はやい」は確実に新しいステップを踏み出しました。

場外での一言

正直なところ、当初デモでの「データサーフィン」の超高速パフォーマンスはあくまでもデモ用で、本番システムでは実現不可能ではないか？しかし、データサーフの主張する能力の仮に2~3倍の時間が掛かっても許容時間内に短縮されるので充分である程度に思っていた。

しかし、驚くべきことに本番環境稼動時において、如何なる条件下での検索・集計もデモ環境以上のパフォーマンスを実現していた。

他のどのツールでも実現出来ないであろうパフォーマンスの「データサーフィン」「サーフビューア」の組合せが情報取得・分析の武器として、多くの業界・企業で活用されることを期待します。有限の時間を思考プロセスにシフトしましょう。

今後の展開 「One Stop Station Service」へ

今回の「データサーフィン」の導入で新分析支援システムは全て終了したわけではなく、ようやく五合目まで来たとの感触です。分析において従来はデータを「作成する」に時間を取られ本来の「思考する」に十分な時間を使うことが困難でしたが、「データサーフィン」の導入でこの時間配分をシフトし、より多く「思考する」にすることが、現実のものになりました。そのため、「データサーフィン」の上手い利用の情報提供を定期的に行います。また、拡張性・展開能力を活かしより幅の広い情報を追加することで分析バリエーションを拡大したり、グラフィカルな表現や直感的インターフェースの充実により、より自然に分析を身近なものにする情報の「One Stop Station Service」の実現を次のテーマにします。

「速さ」を更に進化させ、グローバル製薬企業「アステラス製薬」へのより高質なビジネス展開を支援したいと思います。

弊社開発スタッフからの一言

本プロジェクトは、膨大な種類と量の情報、数多い独自のロジック、更に「はやい」「ひとつの基本型」のコンセプトに、解決しなければならない難題山積みの条件に戸惑い、また短い開発期間とかつて無い開発経験でした。しかし予想以上に順調に進んだ背景には、統括としての意思決定、提案、案件判定、アドバイスとアステラス製薬様導入関係者の「はやい」の連続した実践があればこそだったと思います。我々にとって改めて「はやい」の意義を勉強させて頂いた貴重な事例でした。